



奥春別小5年
小泉 真大君



弟子屈小5年
岩本 桃香さん



和琴小4年
土田 渉介君



和琴小3年
永谷 優奈さん



弟子屈小3年
鈴木 大地君



弟子屈小3年
木名瀬 周太君



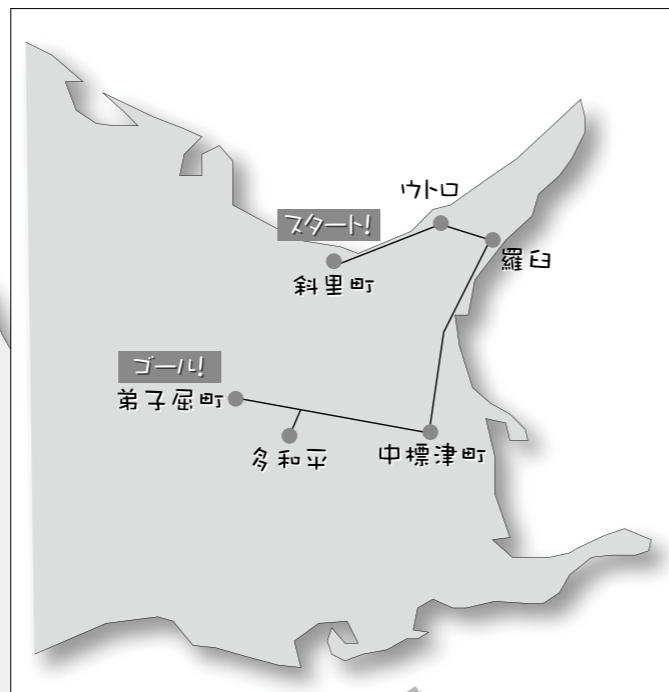
弟子屈小3年
伊藤 溪一君



和琴小2年
土田 英恵さん



奥春別小2年
小泉 汐南さん



今年の冒険小僧たち

弟子屈町未来こども協議会(目黒厚子会長)主催の「元氣いっぱい！僕らの旅！」(アドベンチャーツーリング2014)が、今年も8月6日～10日の5日間にわたって行われました。
グループ分けやツーリングのコース、食事計画などを子どもたちが自ら決定し、旅をする活動。活動は6月に始まり、12月まで続きます。今年も小学校2～5年生9人が参加。テントでの寝泊まりや野外での自炊を行いながら、総走行距離約180kmの自転車ツーリングに挑戦しました。
活動の目的はどこにあるのでしょうか。そして、参加した子どもたちの様子は…。写真で活動を振り返りながら、内容を紹介します。

自分自身に自信を持つ
仲間と信頼関係を築こう

僕らの旅！ 元氣いっぱい！



アドベンチャーツーリング2014

非日常生活体験活動を通して豊かな心と生きる力を育んで

今年も子どもたちの熱い夏が終りました。

「元氣いっぱい！僕らの旅！」(アドベンチャーツーリング2014)は、弟子屈町未来子ども協議会が主催して今年で4回目。非日常生活体験活動を通して、子どもたちが社会性や協調性、冒険心、挑戦心を養うこと。思いやりの心や豊かな心、たくましく生きる力を育むことを目的に行われています。今年も小学生2～5年生9人が参加しました。

子どもたちの課題の解決そして人づくりへ

アドベンチャーツーリングには、活動によって現代の子どもたちが抱える課題を解決したいというねらいがあります。具体的には、次の2つの目標を掲げています。

- 仲間と信頼関係をつくること
- 自己肯定感が低下している。

この目標の背景にあるのは、現代の子どもたちに見られる、次のような現状です。

- 自己肯定感が低下している。
- インターネットや携帯電話の普及により、これまでになかった全く新しいコミュニケーションの形が生まれ、生まれやすくなった反面、子どもたちの人間関係にも大きな影響を及ぼしています。直接、顔を見て感情や思いを伝え合うことから、携帯電話でのメールなどへ。結果として、友人関係が生まれる青少年期に人間関係が希薄化したり、友人関係に問題が発生したりする事態となつていきます。

アドベンチャーツーリングを通して成長を

未来子ども協議会が主催する体験活動の中で、アドベンチャーツーリングは「たくましく育ってほしい」「仲間と協力し、信頼関係を築いてほしい」「自分に自信を持つてほしい」というねらいのもと行われています。そのため、子どもたち自身を中心に、日頃行わない活動に挑戦すること、挑戦によって「気づき」を得ること、「気づき」によって子どもたちも保護者もスタッフもみんなが成長していくことが必要だと考えています。

こうした観点から、アドベンチャーツーリングも、走って終わりではありません。活動は自転車に乗る前の段階から始まります。参加希望者に対する条件が「全日程に参加できること」とされた理由が、ここにあります。

メンバーと初対面 これからどうぞよろしく

初めての活動は6月29日。今年のメンバー9人が決まり、開会式とオリエンテーションを行いました。開催に先駆け、6月5日には保護者説明会を開催。事業の趣旨や目的、内容などを理解していただいた上で参加していただくためです。

● コミュニケーション能力が低下している。

● 自分が傷つくことを恐れ、他人とのコミュニケーションを回避する。
● 友人関係や対人関係が希薄で、異年齢や異世代との交流が少ない。
● 失敗を恐れ、自分自身で決定することをしない。
● 他人任せで、言われたことだけに取り組む。
● 体験不足で、学習などの意欲が低下している。

● 自己肯定感が低下している。
インターネットや携帯電話の普及により、これまでになかった全く新しいコミュニケーションの形が生まれやすくなった反面、子どもたちの人間関係にも大きな影響を及ぼしています。直接、顔を見て感情や思いを伝え合うことから、携帯電話でのメールなどへ。結果として、友人関係が生まれる青少年期に人間関係が希薄化したり、友人関係に問題が発生したりする事態となつていきます。

また、核家族化・少子化が進み、異年齢の子どもとの交流や、親や学校の先生以外の大人との触れ合いの機会が減少していることも、子ども

初対面の参加者もいるため、初めに自己紹介やアイスブレイク(仲間づくりのゲーム)などを行いました。お互いに打ち解けたところで、ツーリング中のグループ分け。「アドツアー班」「やる気マック班」の2つのグループができました。また、スタート地点についても話し合い、斜里からウトロ、羅臼という、知床半島でのツーリングが決まりました。

いよいよコース決定 体験活動も盛り込んで

7月6日第2回目の活動では、旅のコースを決めました。体験活動は、海釣りやゆめの森公園(中標津町)での遊びに決まりました。地図と首つ引きで仲間と話し合いながらのコース決め。1日に自転車で行くことがいいのか、宿泊地はどこにするのか…。考えることはたくさんあります。

自転車で長距離を走り 炭をおこして食事を作る

第3回目は7月27日。自転車走行や野外炊飯の練習をしました。 TENTを張るのも、炭をおこすのも、食事の準備をするのも子どもたち自

たちのコミュニケーション能力の低下につながっています。

さらに、家庭や学校ではいろいろな制約も多く、指示されないと行動できない子どもが増えていきます。制約を受けていることから、失敗してしまうことや間違ってしまうことを恐れ、自分で物事を決定することができません。自分から進んで行動したり、自分の思いや考えを持つことが苦手になっています。

加えて、学びの土台・出発点である「体験」の不足により、子どもたちの思考の活性化が妨げられているともいわれています。

家庭・学校・地域が連携し 子どもの成長の一助に

子どもたちが抱える課題を解決し、大きくたくましく成長した先にあるもの。それは、その力を発揮して地域づくりを担ってくれることだと考えます。人づくりは地域づくり。そういった観点から、さまざまな体験活動や集団活動が子どもたちに必要だと考えています。

そうした機会を子どもたちに提供したいと、同協議会ではさまざまな事業を展開しています。子どもたちが健やかにたくましく成長できるように、また、地域に対する愛情

を育んでいけるように…。という思いからです。

根底にあるのは、子育ては家庭と学校、地域が一体となつて行うものだという理念。理念は第5次弟子屈町総合計画にもうたわれ、具体的な事業としては町教育委員会が行う青少年健全育成事業などがあります。が、地域での子育ての受け皿になりたいと同協議会では考えています。

地域での子育ての 受け皿・窓口になるため

ところで、皆さんは弟子屈町未来子ども協議会をご存じですか。同会は2006年10月1日設立で、現在の会員は21人。子育て世代のお父さんお母さん、子育てが一段落ついたおじいちゃん・おばあちゃん、保育士や元保育士、元教師、保健師などで構成され、子どもたちの健全な成長を地域として支えるために、さまざまな活動を行っています。同協議会では随時、会員を募集しています。申し込み資格は特にありませんので、お気軽にお問い合わせください。

□問い合わせ先/会長・日黒 ☎482-3062まで。

6月29日(日)	第1回目
開会式・オリエンテーション。ツーリングのグループ分けやスタート地点などについての話し合い。	
7月6日(日)	第2回目
旅のコースづくり。	
7月27日(日)	第3回目
自転車走行練習や野外炊飯など。	
8月3日(日)・4日(月)	第4回目
旅の間の食事計画づくり。持って行く装備や道具についての話し合いと準備。自転車走行練習。テント設営の練習。	
8月6日(水)～10日(日)	本番
JR摩周駅から車で斜里駅に移動してツーリングスタート。4泊5日で180kmを走破して、元気に弟子屈町に到着。	
8月11日(月)	第6回目
後片付けなど。	
12月上旬	第7回目
活動の振り返り。	

身です。長距離のツーリングを終えて、疲れた体での食事の準備。本番はどうなるのだろうか、思いをはせながらの活動となりました。

間近に迫ったスタート
みんな最終確認

いざ本番 自転車旅の始まり

第4回目は8月3日・4日の2日間。6日のスタートに向けて最終確認です。グループごとに目標やルール、食事の計画を決めました。さらに、持って行く道具を準備・点検し、積み込みを行いました。

3日には、各グループで走行コースを決めて、公民館↓川湯エコミュージアムセンター↓屈斜路ガイドステーションわか↓町公民館と50キロ以上の自転車走行と、テント設営・撤収の練習も行いました。

活動中、スタッフは基本的には見守りに徹します。子どもたちが主体となつて旅を創り出してほしいからです。子どもたちにはつらい場面も多々あったかもしれない旅。乗り越えたとき、子どもたちの心に残るものは何だったのでしょうか。



心豊かで心身ともにたくましく育つために

スタッフの思い



プログラムディレクター
 弟子屈町未来子ども協議会
 事業部長
奥村 利之さん

8月6日、いよいよ待ちに待った出発日。早朝6時40分にJR摩周駅に集合して出発式。お父さん、お母さんなどが見送る中、出発地のJR知床斜里駅まで汽車に乗り込み、アドベ

ンチャーツーリングが始まりました。今年、活動の中心になったのが自転車走行。自転車の乗り方、手信号(シグナル)や声掛けを学び、自動車や歩行者への意識を高めるほか、走行練習も地図とコンパスを使用しながら40分以上も走るなど「自分たちの旅」に向けての準備を進めました。

多い日で60分ほどの移動、グループごとに、地図とコンパスを頼りに進みます。2日目は、ウトロから羅臼までの知床横断道路を越える日。スタッフとマンツーマンでチャレンジし、全員が自分の足でペダルを踏み、知床峠の頂上に到着しました。最終日、中標津町から弟子屈町ま

保護者の皆さんから



今回初めて参加させていただき、ひとり立ちする娘を送り出す親の心境を感じさせていただくことができました。

参加案内をいただいてきた娘は、私が会社から帰宅後「参加したい」と申し出てきました。最初は冗談かと思いましたが、本人はやる気満々で、やめさせるためにネガティブなことばかり娘に話したことを覚えています。それでも参加したいと強い意思で言われたことで、知らない間に成長していたのだとあらためて感じました。練習期間中も家では弱音を吐くこともなく、自分で決めたことという思いは相当強かったのではないのでしょうか。

ツーリング中は皆さんにご迷惑をおかけしながらも、本人もつらい日々が多かったと思います。帰ってきたときの顔には、達成感に満ちあふれた表情がありました。ゴールは感動的でしたが、私が娘に近寄ったら「あ、来てたの？」でした。これも成長なのでしょう。

娘にとっても、親にとっても大変貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

岩本桃香さんのお父さん



深一へ

5日間よく頑張りました。お父さんも経験したこともない長い距離を自転車で走り抜けましたね。自分の足で知床の大自然を横断できたことは、とってもすてきです。友達と力を合わせて乗り越えてきた努力を、これからたくさん場面でも生かしてください。

子どもたちを温かく見守って、そっと背中を押してください。スタッフの皆さんに感謝です。ありがとうございました。

伊藤深一君のお父さん



アドベンチャーツーリングは子どもにとって、そして親にとっても試練の連続。その試練に立ち向かう自身の強い心、協力し合える仲間と見守ってくれるスタッフの存在。それら全てから、今はまだ子ども自身実感がなくても、いずれ成長し、困難にぶつかったときに、負けずに対応できるヒントが得られたらと思います。

親としても、自転車の練習を子どもと取り組むことで、大変ではありましたが、とてもすてきな時間を過ごせました。

自分の手出しできないところでの厳しい試練に子どもを送り出すこと自体が、親には大きな試練ではありますが、子どもの力を信じて待つことで、親としても一つ成長できるように思います。

親子共々、貴重な機会をさせていただいた未来子ども協議会、スタッフの皆さんには感謝の思いでいっぱいです。ありがとうございました。

小泉真大君・汐南さんのお母さん



親元では絶対にできない貴重な体験を毎年させていただき、とても感謝しています。

親の目が無い場所で、自分たちの力を信じて活動することで、自信が付き、積極的に物事に取り組めるようになってきているように思います。つい口を出してしまいたくなる場面でも、子どもたちを信じ、じっくりと向き合い、待っていてくれるスタッフの方たちのおかげです。

来年も、その先も、この活動がずっと続いてほしいと願っています。

土田渉介君・英恵さんのお母さん



小学校3年生の二男は、今回が3回目のアドベンチャーツーリングでした。

1年生の時…自転車にまだ乗れなかったのに「行く気」だけで申し込んだため、長い距離が全く走れず、途中で何度も泣いていました。

2年生…序段の「話し合い」が苦手で、みんなと叱られてばかり。でも本番では、つらい坂道を頑張って登れるようになり、それがとてもうれしかった様子。

そして3年生…これまでよりもずいぶん長い距離を楽々と走れるようになり、ぐんと成長したのを感じます。同時に、これまでの経験が少しずつ積み重なって、それが二男の中で大きな自信となっているのが傍目にも分かり、とてもうれしく思います。

「やればできる」は自転車走行に限らず、人生の幅を広げてくれる大きな「気づき」。成長の大きな一歩を、背中を押して応援してくれるスタッフの皆さんには、毎年心から感謝しています。

また、去年・今年と、アドベンチャーツーリングの卒業生である長男が、スタッフとして参加させていただきました。長男も、叱られたり、迷ったり、ご迷惑をおかけしたりしながらずっと参加してきたアドベンチャーツーリングでしたが、積み重ねた経験が糧となって確実に成長しているのを感じます。

家庭の中では決して得られない貴重な機会を与えてくださったたくさんスタッフの皆さん、今年も本当にありがとうございました。

木名瀬周太君のお母さん



今回、初めての参加でした。こんなに良いことが弟子屈で行われていることに、すごく感動しました。子どもと向き合える喜びを感じました。

娘と初めてアドベンチャーツーリングについて話したとき、目がキラキラ。「やってみる」と練習している姿を見て、毎回泣いていた私でした。何から何まで初めてで、とてもよい経験ができました。娘もとても強くなって帰ってきました。

スタッフの皆さんのおかげです。毎年アドベンチャーツーリングがありますように。今の子どもたちに楽しい経験が心に残りますように。

永谷優奈さんのお母さん

アドベンチャーツーリングは参加者と携わる者全ての育みの場

町教育委員会で実施していた「しなが冒険隊 アドベンチャーツーリング」を継続実施する形で、当協議会での実施が4年目の夏を迎えました。保護者説明会を実施し、9人の小学生が参加を申し込み、6月29日から活動が始まりました。グループやスタート地点、ツーリングコースの決定、野外炊飯やテント設置などの活動を、子どもたちが主体となって行いました。



自転車の練習に重点を

ンチャーツーリングが始まりました。今年このコースは、JR知床斜里駅をスタートし、ウトロ⇄知床峠⇄羅臼町⇄中標津町⇄弟子屈町にゴールの約180kmです。

例年同様、自転車で走行しながらキャンプ場に宿泊。テントを張り、自分たちで夕食を作って食べ、片付け。終わったら振り返りをして寝る…という毎日。天候には恵まれず、テント設置時や撤去時になると雨が降る日が多く、子どもたちには試練となりました。自分の思い通りにならず、段り合いのけんかも度々。2時間ほどかかり、ようやくテントを撤去する日々でした。

「隠れていたものに気付くこと。大きな達成感で「自信をつかむ」ことができるよう取り組んでいます。そのため、スタッフは安全管理と見守りに徹し、子どもたち主動で事業が進むようにしています。運営する者にとって一番印象的なのは、子どもたちの「6月に活動を開



元気いっぱい！ 僕らの旅！（アドベンチャーツーリング2014）本番の様子を写真で振り返ります。

今年も北海道教育大学岩見沢校アウトドア・ライフコース専攻の学生を実習生として受け入れたほか、大学生や高校生のボランティアスタッフに活動を支援していただきました。活動中、スタッフは見守りが中心で、よほどのことがない限り手を出しません。子どもが伸びようとする場面を阻害せず待ち、正解を教えるのではなく「気づき」を与えられるように接することに重きを置いているからです。主体となって活動できる半面、子どもには負担も増えますが、そこを乗り越えてたくましく育ってくれるのだと思います。

また、4回目となった今回は、企業からの協賛もありました。屈斜路ガイドステーションわか（木名瀬裕代表）がテントを貸してくださったほか、東部ダイハツ株（標茶町）が活動に使う車両を格安でレンタルしてくれるなど、事業の趣旨に賛同して下さる地域の皆さんも増えています。



仲間と走った180km



①8月6日 旅の始まりは斜里町／②ウトロを目指して快走／③1日自転車をこいで疲れた体でテント設営／④ツーリング初日 知床の海岸線に行く／⑤自分たちで炭をおこして食事の準備／⑥今日の献立は何か／⑦食後の後片付けも当然自分たちで／⑧急きょ追加された多和平までの道を地図で確認／⑨お楽しみ体験活動は釣り／⑩大学生スタッフともこんなに仲良く／⑪チャレンジデー 知床峠を越える日／⑫全員無事に知床峠へ／⑬・⑭計画になかった多和平にも元気に到着／⑮ゴール地点で子どもたちを待つお母さんたち／⑯出迎えの中 全員でうれしいゴール